

「現地を訪問して想うこと」

1988年 法学部卒業

西田 雄二

この度は、東北応援ツアーに参加させて頂き、誠にありがとうございました。

私は福島県相馬コースに参加させて頂きましたが、その理由は、昨年息子と2人で北海道から被災地を訪問した時に、フェリーで八戸に着いてから間もなく、所々に崩れた道路や橋、まだがれきが残されたままの津波に流された家々等、ほんとうに想像を超える現実に、改めてもっと知る必要があると感じたからです。

その時は、時間の都合で仙台までしか行けなかったのですが、次は津波と原発の2重の被害に苦しめられている福島にぜひ行きたいと考えていたところにこのツアーの案内を頂き、いてもたってもいられませんでした。本当は、もっと原発被害地域に近付きたかったのですが、それでも思ったより、地元の校友の方々にお世話になり、大変ありがたく思います。そこで、大きな被害を受けられた、立谷味噌醤油店や、同じくささ圭さんのお話、また、風評被害と闘っておられるりんご園の方から強く感じられた事は、「直接被害」「二次被害」「風評被害」等、被害の形はいろいろ有り、実際に損害も有るんだけど、では、一体「加害者」は誰で、何なのかという事です。実は加害者のない被害者はありません。もちろん「加害者」には責任を問えない場合もあります。でも、この国においてはよく、過去から「加害者」を語らず、うやむやにしようとする風潮があります。結論から言えば、間違いなくこの「福島」の被害には加害者が存在します。今、その事を明確にし、責任を問うことなしに決して解決はできないでしょう。

真にこの問題を解決させるという事は、被災関係の人全てが納得し、心の整理を付け、未来に生きる力を再び得られるようもするという事です。そのためには、原因が正され、責任が果たされ、二度とこのような事は起こさない、起きないという保障が絶対に不可欠です。私たちはこれからそのための取り組みに全力をあげなければ、歴史はまた繰り返される事になるでしょう。私はこの度のツアーで、そうさせないための決意を新たに致しました。

最後になりましたが、このツアーの企画、運営に多大なご尽力を頂いた、事務局、校友の皆様重ねて感謝いたします。